

【プロブレムという概念】

栗本 秀彦

(レクチャー講演のPPTを文章化した 2018・05)

昨今ではプロブレム・プロブレムリストという用語がさかんに聞かれる。ようやくプロブレムが「患者の病気」になったようである。病気ではない社会的な事象がプロブレムから除かれるのに、プロブレムという用語を使用しはじめてからおおよそ40年の長い年月がかかった。思考がすこしずつ整ってきたわけで、これは喜ばしいことである。

とはいっても残念ながら、プロブレムという概念が正しく理解されて診療に用いられているとは言いがたい。そこで、長らく総合プロブレム方式が実践し、示し、説明してきた、プロブレムの概念を今一度あらためて土台からご説明もうしあげたい。

1. まず、私たちが日頃使いまたは目にするコトバの使い方と意味を見てみよう。

英語辞書の problem は、

"Problem" Longman: a question for consideration or for which an answer is needed.

Oxford: doubtful or difficult matter requiring solution.

英和独和辞典の problem の訳語は、

"Problem" : 問題・課題・疑問

"問題"とは国語辞典によれば、

角川国語中辞典：取り上げて討議・研究あるいは解決すべき事柄

広辞苑： 研究・論議して解決すべき事柄

学研国語辞典： 解決しなければならない事柄

どれも似たような意味である。私たちの頭の中には、このような使われ方と内容が当たり前のようにはいつている。プロブレム・プロブレムリストといったときも、このニュアンスにまとりつかれているのも不思議ではない。

"プロブレム"は、problem でも問題でもない異なる文字表記である。既存している意味を断ち、新たな概念を提示するためにカタカナ表記としたのである。頭の中に入ってしまった problem や問題のイメージをとにかくにも払拭してから、プロブレムの概念理解にとりかかっていたきたい。

2. 一般的な用語から医学用語に移ろう。同じような意味をもつ用語として、代表的に二つの用語、"病気"と"疾患"をとりあげる。私たちはどのように使っているだろうか。

病気： かれは病気だ (疾患だ X)

疾患： 肺がんは疾患だ (病気だ △)

かれは病気だ、というのが疾患だとはいわない。肺がんは疾患だと、いう。病気だともいうだろう。当たり前だ、何でも病気にきまっている、と。めまいは病気だ、だが、めまいを疾患だとはいいそうにない。横隔膜裂孔ヘルニアは疾患だ、でも病気だとは多分いわない。こうしてみると二つの用語に異なるを意味合いがあるようだ。私たちは何となく使い分けているようだ。

そうなのだから、この際二つの違いをできるだけ明確にしておきたい。曖昧さがあればできるだけそれを払拭しておきたい。

3. 病（気）名： かれの病名は？（疾患名は？ とは訊かない）

疾患名： 肺がんは疾患名か？（病名か？ともいうだろう）

かれの病気は肺がんで肺がんは疾患である。かれは病気だ かれの病気は？（とても悪い）病名は？（肺がん） これは滑らかな会話である。ここで気がつく。

病気： かれの かの女の 自分の …… 所有者がある

つまり、病気は個々にあるその人に固有なもの。

すなわち、かれの病気 ≠ 自分の病気 | かれの肺がん ≠ 自分の肺がん。

4. お七・庄之介： 固有で別物

これは間違いない。ところで、こういう。

"お七は人間だ 庄之介は人間だ"

これはどういうことだろう。別物のお七と庄之介が人間という同じものになっている。

かれの病気・かの女の病気： 固有で別物

"かれの病気は肺がん・かの女の病気は肺がん"

かれとかの女の病気はそれぞれ違うのに、肺がんで同じといっている。

5. お七・庄之介： 固有で別物

お七は人間だ 庄之介は人間だ

このときの"人間"は、概念である。

人間： 概念

肺がん： 概念

概念とは、個別偶発的性質を捨てて共通特徴を抽象した事物の本質的表象。

お七・庄之介は個別的だが、ともに人間という共通特徴を備えた存在である。

6. この図を見ていただこう。大きな袋があり名札が書かれてある。"人間"。

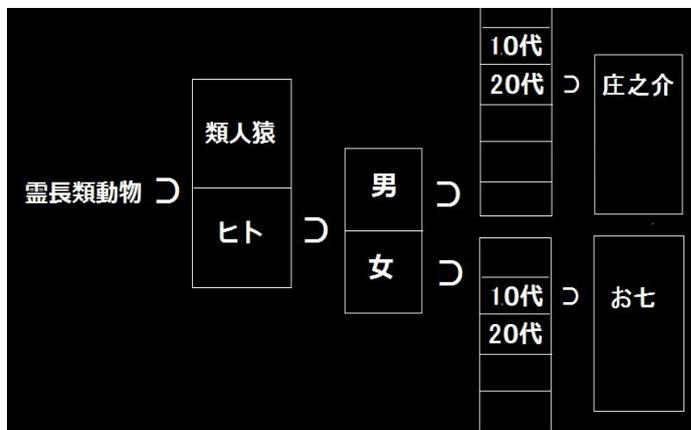
袋の中に、お七も庄之介も、Marinaも道長も入っている。王昭君もRomioも皆、袋の中のものは"人間"である。お七と人間とはこういう関係にある。

9. 大きな袋の中に個々に固有のものが入っているが、数学は集合の記号でこの状態を表記している。

	庄之介		かれの肺がん
	お七		かの女の肺がん
	Romio		Aの肺がん
人間 ⊃	道長	肺がん ⊃	Bの肺がん
	Marina		Cの肺がん
	王昭君		Dの肺がん
	Lucyna		Eの肺がん
	Carolyn		Fの肺がん

人間の袋の中にはお七と一緒に70億個ほどがつめこまれている。これでは茫漠としていて、お七が袋の何処にあるかもわからない。もう少し整理して分かりやすくできないか。

10. ヒトの中にいきなり個々固有の特殊別物をそのまま放り込むと、70億にお七は埋もれてしまう。そこで、ヒトをもう少し区分けして整理した中にお七を入れよう。ヒトをまず男女に二分する。するとお七はヒトの半分の女の中にいる。さらに女を年令で分けよう。すると女の10歳代の中にお七がいる。こうすれば次々輪が狭まりお七の居所が分かりやすくだろう。



11. ここでさらに考えを拡げたい。前項の図を見ながら考えていただきたい。

庄之介もお七もヒトという概念にあった。見るとお七は、もっと真近かな女という概念中にあり、さらに10歳代の概念のなかに他の10歳代に交じってある。ヒトはより大きな広い概念で、年令も性別も区別していない。だからその中に70億個もつめこまれる。

こうしてみると概念は集合であるともいえる。ヒトは男女を部分集合とした上位集合概念であり、男女はヒトの下位部分集合概念である。すぐに気づくことは、部分集合はたがいに排他的である。男のなかに決して女はない。10代の中に20代はない。部分集合同士の境目は隙間なくピッタリ合わさっているが、決して重なってはいない。

では、ヒトこそ最上位概念かといえそうではない。ヒトはその下位集合の上位集合であるが、

ヒトにも上位集合がある。そこではヒトは上位集合の部分集合である。ヒトと排他的な部分集合は類人猿で、これらの上位集合は霊長類動物とされるだろう。

12、ここまでの検討で重要なことがわかった。頭に入れておきたい。

概念は集合である

部分集合は排他的である

上位集合は一般的広範である

部分集合は限定的特殊である

13、この図をみていただこう。前図ではヒトをまず男女に分けた。他の分けかた、たとえばこの図のように、まず年代で分け体重で分け、その後の性別で分ける。両図を俯瞰していえることは、これらはヒトにたいする私たちの認識像である。ヒトといったときに、ヒトをどのように見ているかの認識の仕方といえる。

さて、前図かこの図のどちらが認識の仕方として合理的整然としているだろう。理窟をいわなくてよいので、くらべてどちらが良いかを感じていただきたい。

ほとんどの人は前図がよいと感じるだろう。この図は どうしてダメと感じるのだろうか。この図には概念の混乱がある。

上位集合のヒト概念から右への部分集合の順序に注意しよう。この図では一般的な広範集合が限



定的特殊集合の部分集合となっている。限定的特殊概念を一般的広範概念の上位概念としている。だんだんと細かく全体を分けてゆくのではなく、いきなり細分化している。細分する年齢だったり身長や体重だったりを先にしてして、大別二分する性別を後回しにしている。これが違和感を感じさせ、この認識をなにかゴチャゴチャで分かりにくいと感じさせる。

14. 医学事象で同じ事を見ると、上位下位集合の逆転の異様さがよくわかる。

急性肺炎 ⊃ 急性肺炎球菌肺炎 ○

X 急性肺炎球菌肺炎 ⊃ 急性肺炎 ではおかしい。

多関節炎 ⊃ 関節リウマチ ○

X 関節リウマチ ⊃ 多関節炎 ではおかしい。

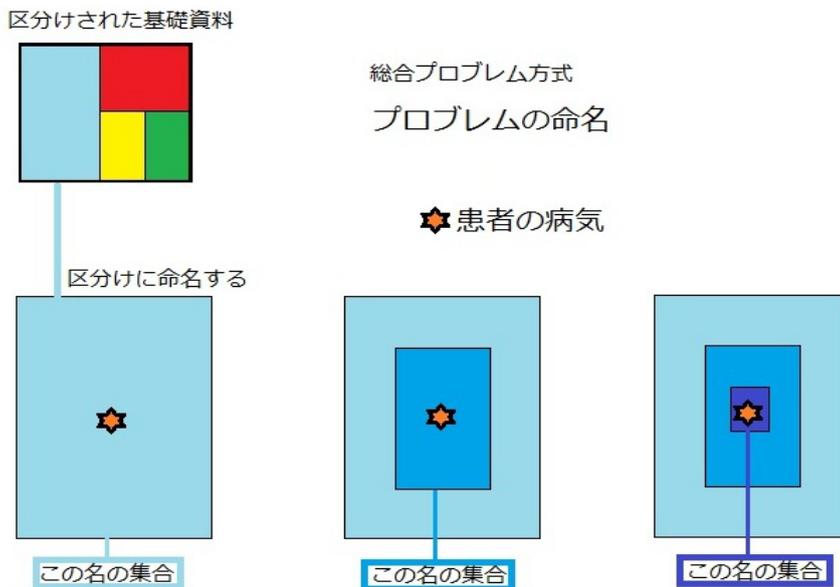
常に考えていなければならない。一つの用語（概念）に出会ったら、その上位概念・上位集合は何か。その下位概念・部分集合は何か。

15. 病気・疾患から一般化した概念・集合の考えをふまえたうえで、具体的診療の課題を調べよう。

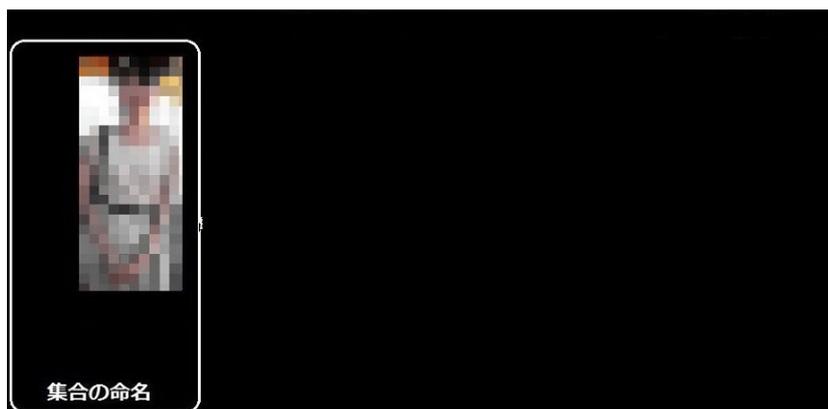
かれの病気は何か？病名は？この時点での診断は？この時点の病気の名は？

これが常に私たちの課題である。入手した情報資料からまず個々の病気を数え上げる。そして、個々それぞれに名をつけて呼ぶ。これが、この時点の診断、すなわち病名である。

患者の病気はその名で呼ばれる集合の中にある。逆にいえば、患者の病気を名で呼んだ瞬間に、その名の集合に病気を入れたのである。はじめは、病気は広範な集合の中にしか入れられないのは普通にあることだ。診断作業が進むにつれて、入れる集合は限定的特定の方向に向かって狭まってゆく。病気が特定されてくる。診断作業は限定的特定の名を求めてすすむ。そして時点々々で得られた集合の名が、その時点の診断、すなわち病名であり、それがプロブレムである。



16. 抽象的な話だけではわかりにくいかもしれないので、プロブレムとは何かを理解する手立てとし



て具体的に診断作業をやってみよう。この図で作業開始。自分で考えてみてほしい。何かが複雑な動きをしながら此方にやってくる。これは何か？ いま名をつけて呼ぼう。

“生き物”。なるほど。集合“生き物”には植物も入っている。植物は動いてやっこない。もっと名を絞れるのではないか？

17. “動物”としよう。集合“動物”の中にこのものがある。近づいてきて情報が増えた。

集合“動物”の部分集合のどれかに、このものがある。その部分集合を名指そう。“ヒト”。



18. さらに情報が得られた。何？ “女”。すると80才のばあさんか0歳の赤ん坊かもしれない、のか？

“成年女子”までは診断できるだろう。この時点のプロブレムは“成年女子”である。



19. 近づいてくるにつれて情報はどんどん増えて、このものが属する集合をより限定的特定のな名に



することができる。

“成年日本人女子”。

20. ついにこれ以上の情報はないところまで来た。そうなるとこれが最終診断になる。この集合名、診断は？



21. “木花咲耶姫”。これがこの時点のプロブレムである。動物からはじまって木花咲耶姫 にたった一連が診断プロセスである。情報が増えるにしたがって、このものに対する知識がふえて、限定的特定のな名で呼ぶことができるようになる。一歩ずつ集合を狭めて何であるかを結論するが、その結論には根拠がなければならない。事実であるとする根拠がなければ診断は前へ進まない。あやふやな憶測でもってプロブレムとしてはならない。“木花咲耶姫”をあやふやな根拠で“小野小町”と呼んではならない。

22. 情報が足りなくて前へすすめないこともある。たとえば“成年女子”までしか診断し得なくても仕方がない。そのばあいは、次の部分集合へ行くためには何を知ればよいかをわかっている必要がある。そして、それを知る検査計画を立てて実行する。このように診断プロセスがすすめば、検査は肯定否定する事柄が明確である。ただの闇雲検査にはならない。

ロボットなら	二足歩行で	容姿は女子	日本人だ	木花咲耶姫
直線的動きだろう	服を着ている	かつ成年	だれ？	
生き物だ	性別・年齢は？	人種・国は？		

23. ここで大事な注意をもうしあげておく。プロブレム“木花咲耶姫”は集合の名である。この集合には複数の 木花咲耶姫 がある。このものはその中の一つ。それぞれの 木花咲耶姫 は固有で別物だが、いずれも木花咲耶姫 である。かれの肺がんとかの女の肺がんは固有で別物でも、同じ肺がんの名を持っているのと同じこと。

24. プロブレムは患者の病気である。Problemや問題ではない。プロブレムリストは、患者の病気の一覧表である。

木花咲耶姫 のばあいプロブレムリストはこうなる。(番号規則や日付規則は別にゆずる)

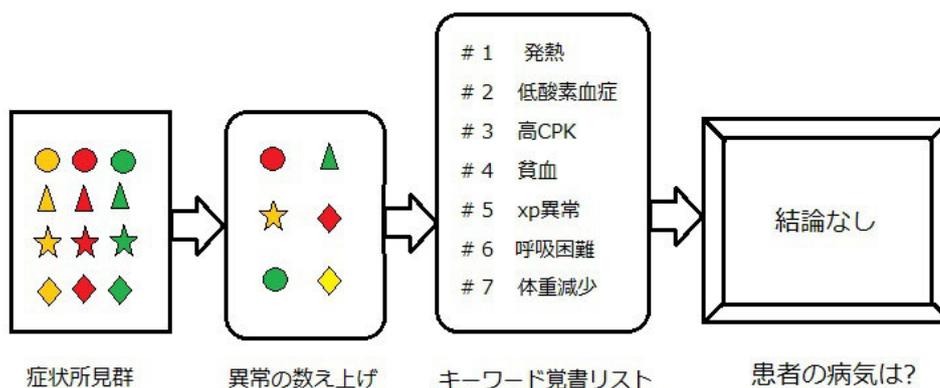
#1 ヒト(日付) → 木花咲耶姫(日付) (動物は省いている)

診断プロセス: #1 動物 → ヒト → 成年女子 → 成年日本人女子 → 木花咲耶姫

一歩ずつ集合名は限定特定のようになってゆく。それぞれの時点での「これは何か」の結論、すなわち、その時点の病気の診断名である。

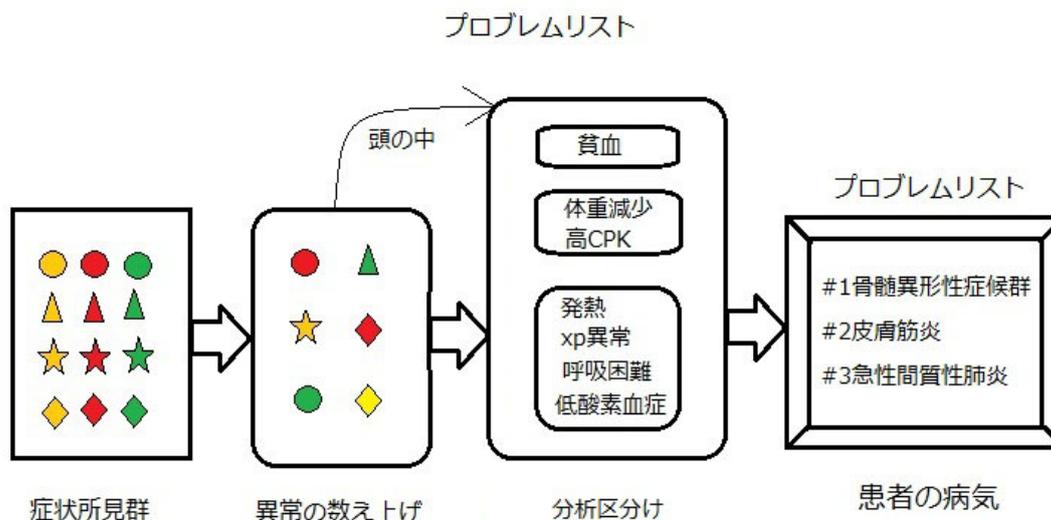
25. ここで実診療におけるプロブレムリストを概括しておこう。この図はしばしば見かけるものである。プロブレムリストと言ってはいるがキーワード覚え書きリストである。ここには「病気は何か」の結論はない。ただ、異常事項の数え上げ羅列であって、そこから分析・考察・判断そして結論への道程がない。これでは実診療に意味がない。

キーワード覚え書きリスト



26. 総合プロブレム方式の図と見比べていただきたい。もちろん異常事項を数え上げる。肝心なことは「病気は何か」の結論であり、それこそが求めるものである。山積している情報を分析考察して病気ごとのグループに整理する。グループごとに共通する特徴は異なる。それぞれが一つ一つの病気に対応する概念である。それに名をつける。その概念集合に、患者のその病気は含まれている。

この診断プロセスは下図からわかっていただけよう。



27. 実例をお目につけよう。ある学会のCPC討論で、プロブレムリストとして示されたものである。討論者は3人。[C][D]がキーワード覚え書きリストであることは一目瞭然。それで診断は？ アレもコレも可能アレもコレも否定できない。というだけで、診断への論理プロセスも当然結論もない。右上は総合プロブレム方式のプロブレムリスト。診断プロセスを経た診断結論のリストである。

何がどのように違うか、次元が違うことを感得していただきたい。

[C] プロブレムリスト

- # 1 低酸素血症 (び漫性すりガラス状陰影)
- # 2 肺胞出血
- # 3 両側胸水貯留
- # 4 発熱
- # 5 心雑音
- # 6 白血球増加 (リンパ球減少)
- # 7 貧血
- # 8 血小板減少
- # 9 低補体血症
- # 10 蛋白尿
- # 11 凝固異常
- # 12 肝機能障害

[D] プロブレムリスト

- Positive findings
- # 1 無症候性先天性心臓弁膜症の既往
 - # 2 全身倦怠感・咳嗽
 - # 3 肩・首回りの主だるさ
 - # 4 発熱
 - # 5 血痰
 - # 6 両側肺下肺野にcoarse crackles
 - # 7 心雑音 ; at 2RSB:pandistolic murmur,Ⅲ/Ⅵ. at apex;pansystolic murmur,Ⅲ/Ⅵ
 - # 8 WBC13900/μl(band 12%, seg 75%), CRP 5.31mg/dl
 - # 9 Hb7.3g/dl, MCV83.5fl
 - # 10 Plt1.1万/μl
 - # 11 LDH277 IU/L, AST47 IU/L, ALT12 IU/L
 - # 12 TP5.6g/dl,Alb2.4g/dl
 - # 13 FDP7.3μg/ml,D-D5.9μg/ml
 - # 14 CH50 29.2U/ml
 - # 15 BGA:pH7.540,PaCO2 27.4Torr,PaO2 65.7Torr,HCO3- 23.4mmol/l,BE1.4mmol/l
 - # 16 BALF;ヘモジテリン貪食像、好中球優位の細胞数増加
 - # 17 画像上;肺鬱血,心拡大,右側中葉浸潤影,脾腫
- (以下略)

プロブレムリスト

- # 1 連合性心弁膜症(MR+AS)
- # 2 発熱→亜急性心内膜炎
- # 3 血小板減少症
→疣贅消費血小板減少症(#2)
- # 4 肺胞出血
→肺胞毛細管炎(#2)

28. さいごに、これまでの検討でわかったことをまとめておこう。

プロブレムという概念

- 1 プロブレムは 病気である
- 2 プロブレムは その時点で そのように呼ばれそのようにしか呼ばれない病気である
- 3 プロブレムは その時点の診断名であり病名である
- 4 プロブレムは集合の名称で その名で呼ばれる個々の病気は その集合の中にある
- 5 プロブレムの診断作業は 病気をより限定的特定のな名で呼ぶべくすすむ
- 6 プロブレムリストは その時点での患者の病気の一覧表である



(了)